

特別シンポジウム「科学技術の未来に向けたダイバーシティ推進」 午後の部趣旨説明

Outline of the Afternoon Session in Special Symposium

Research and Innovation through Gender as a Factor

応用物理学会男女共同参画委員会¹, 日本電信電話(株)², 産業技術総合研究所³

○河西奈保子^{1,2}, 増田 淳^{1,3}

Gender Equality Committee, JSAP¹, NTT², AIST³, °Nahoko Kasai^{1,2}, °Atsushi Masuda^{1,3}

E-mail: kasai.nahoko@lab.ntt.co.jp

日本において応用物理学は工業・産業・経済分野との関わりを強く持ち、基礎物理学とは独立した学問として発展してきた。経済・政治とのつながりから、科学技術に関する政治・経済への提言、政策からの要請、という相互関係が保持されており、現在、政府が打ち出している一億総活躍社会の実現、すべての女性が輝く社会づくりにおいても、科学技術という学問分野から政策と連携した活動を進めることで、イノベーションと経済の発展を導くと期待されている。

女性の活躍推進は社会全体で取り組まれているが、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数の日本の順位は145か国中101位¹⁾であり、国際的にみても依然大きな格差が存在する。科学技術分野でも、女性研究者比率は14%とOECD加盟国中最低であり²⁾、さらには人口減少という問題も抱えている。これらの現状から男女共同参画によるイノベーションへの効果は計り知れないと考えられる。

本シンポジウムの午後のセッションでは、Gender Summitの創始者である英国 Portia の Dr. Elizabeth Pollitzer と科学技術振興機構ダイバーシティ推進室長の渡辺 美代子副理事から2件の基調講演を頂き、日英の男女共同参画に関する現状を共有し、研究・イノベーションに与える効果を考えていきたい。

Gender Summit は、性差を科学の重要な要因と捉え、研究とイノベーションの質の向上を目指す国際会議であり、欧州にて2011年に発足し、その後、欧米、アフリカ、アジアへと展開している。2017年5月に東京にて開催される Gender Summit 10³⁾には応物男女共同参画委員会も参画し、性差別の撤廃や平等の社会の構築、という課題だけでなく、ダイバーシティ推進を通して、イノベーションを向上することをテーマにしている。ダイバーシティに富んだ組織の協働によるメリットを科学的に示すことが、世界的にも男女共同参画で必要な段階に来ているといえる。

大きな社会的影響力を持つ応用物理学会を中心とし、女性対男性という構図ではなく、男女双方が能力を発揮できる、多様性のある社会を築き上げていく。参加者の皆様には、こういう目標をもった活動が、学会の、ひいては社会の発展に寄与するだろうということを考える機会にいただければ幸いである。

¹⁾ Global Gender Gap Report 2015, World Economic Forum, 2015.

²⁾ OECD Science, Technology and R&D Statistics 2013 (data 2011). ³⁾ <http://www.gender-summit10.jp/>